

# 西日本新聞

4月8日  
(月曜日)

発行所  
西日本新聞社  
福岡市中央区天神1丁目  
4番1号(〒810-8721)  
©西日本新聞社2013年  
電話092(711)5555(代)  
http://nishinippon.co.jp/

お客さまセンター  
092(711)5331  
平日10~18時  
土曜10~14時(日・祝日休み)  
購読・配達のご案内(7~20時)  
0120-44-0120

## 佐賀

佐賀総局 0952(26)7181

### 「天目」に初の本格挑戦

#### 近況往来

陶芸家・青木清高さん

「き父が背中を押してくれたのかもしれない。2月、都内の百貨店で4年ぶりの個展を開き、長年追求してきた青緑色の「青磁」とともに、自身が手がけた漆黒の釉薬「天目」を並べた。天目は文化勲章受賞者の父、故青木龍山氏の代名

詞「おまえも天目ほせんでよかや?」となる直前に言われた父の言葉が、ずっと胸に突き刺さっていた。長崎大学在学中から「ろくろの名手」といわれた佐賀県重要無形文化財保持者の故中村清八氏に師事。その後、父親の下で修業した。「この家で焼き物を続けるなら当然受け継ぐもの」と、当初は天目に励んだが、父は違った。「おまえはおまえの道を進め」。天目は、「青磁の青木」の



父の自己表現の手段。「作家に世襲はない。借り物で勝負するな」。そんな思いがのぞいた。以来、青磁のめり込んだ。「シンプルだが奥が深く、東洋的な深みと品格に魅せられた。94、97年には青磁の花器で日展特選、09年の日本現代工芸美術展では大鉢で内閣総理大臣賞を受賞し、「青磁の青木」の

よかや?」。だからこそ、父のそんな言葉に「なぜ、いまさら」と反発を覚え、言葉は出なかった。真意をいずれ聞こうと思ったが、病は父の体をむしばんでいた。1カ月後、08年4月、81年の生涯を終えた。「自分がやり残したことをやっつけてほしいと思っていたのかな。そんな思いから20年ぶりに天目の作品つ

## 文化

ファクス 092(711)6243  
メール bunka@nishinippon.co.jp



河南天目牡丹紋花瓶

北九州市で開く個展でも青磁と合わせ天目を展示する。父との力の差は今も大きいと感ずる。でも自分の世界が少しずつ見えてきた。「少し遠回りしましたが、父の物まねではない。清高の天目、そして青磁をこれからも追求していきます」。その言葉に気負いはない。佐賀県有田町在住、55歳。(杉野斗志彦)



青磁面取貼花瓶  
【幅15.5×高25.0cm】



粉青輪花鉢  
【幅24.5×高7.0cm】



油滴天目茶碗  
【幅12.5×高6.8cm】